

Zero Carbon Society 研究センターの概要

Zero Carbon Society 研究センターは、公益財団法人日産財団による研究助成を受けて、2010年10月に関西学院大学内に設立された。

21世紀は環境とエネルギー革命の世紀といわれている。近代社会は、テクノロジーの革新と発展によって生産量の飛躍的な拡大をもたらしたが、他方では化石燃料の大量消費によって地球環境への多大な負荷を生み出すこととなった。このような背景のもと、近年、循環型社会の前提となる「低炭素社会」の実現が、グローバルな課題として唱導されている。

今後われわれの社会が低炭素社会へと向かうのはもはや前提であり、その低炭素化社会における人間の生活や文化はどう変わるのか、その道筋と帰趨を明らかにする必要がある。

Zero Carbon Society 研究センターでは、設立以来、低炭素社会における「人間の移動」と「移動価値」に着目して、そのあり方について学際的な視点から理論的、実証的にアプローチしてきた。人間の「移動」への衝動が生得的欲求であることは動物学的／心理学的にも周知の事実である。人間が本来「移動」する生き物であることを前提として、「移動」を原理的には最小化しようとする低炭素社会において、「移動」をめぐる人々の価値観や文化がどのように変容していくのかという問題について、文化社会学を核として、文理・芸融合の学際的な研究によって未来予測的な展望をたてることが、本研究センターの目的である。

以上に述べた研究目的を達成するために、本研究センターでは、次頁の図のような研究枠組を設定している。この枠組にしたがって、それぞれの領域に位置づけられた各研究（テーマ1～4）を統括していくことが第一の達成目標である。

次ページの上図は「移動価値」のあり方を過去－現在－近未来の視点からモデル化したものである。そして下図は、「移動欲求－不動欲求」、「機能性－遊戯性」という2軸のクロスによって現れた「人間の移動」と「移動価値」にかかわる4つの象限を描き、低炭素社会においてキーワードとなる諸概念を各象限のなかに配置したものである。上図は通時的研究、下図は共時的研究として位置づけられ、研究メンバーは各図にプロットされたキーワードに基づいて調査研究をおこなう。

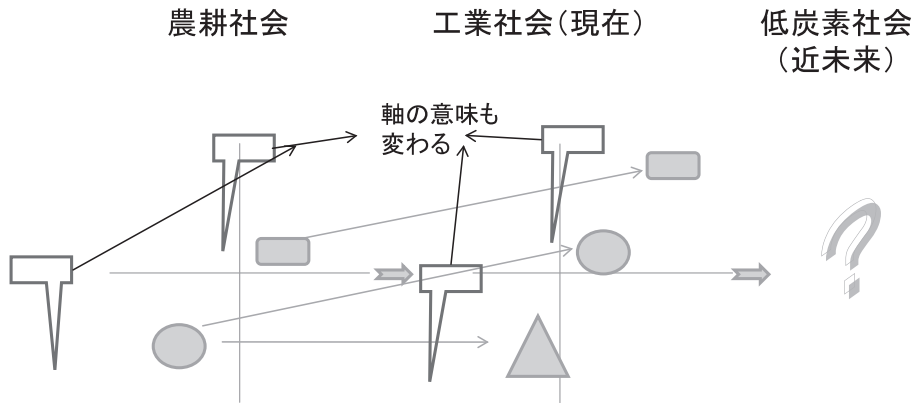
Zero Carbon Society 研究センターでは、この研究プロジェクトの推進のために、各大学の社会学、社会情報学、都市社会学、都市工学、情報科学、芸術学、医療社会学、文化表象学などの研究者との共同研究によって、研究全体の計画、目標設定、各分野の研究の評価を行ってきた。今後も研究センターは、この研究枠組全体を支えつつ、各研究メンバーが担当する研究を調整し総括していく。

2011年度は、研究会を4回実施し、各テーマの担当者から研究状況の報告を受け、各個別研究の評価および研究全体の方向性を確認してきた。それらの報告・討論を経て、研究全体のまとめとして「中間報告書」を作成した（この研究の将来には、それらの成果をまとめて、市販本として刊行を予定している）。今後は、自治体、新聞社との共催で公開シンポジウムを開催し、内外の研究者のみならず、ひろく市民に研究過程、研究成果を公開し、またマスメディアや政府、行政機関に向けても研究成果を発信することによって、低炭素社会を豊かに、楽しく実現するため、「近未来の移動価値」の〈予言の自己成就〉をはかることも射程に入れている。さらには、研究成果のデータベースを構築し、研究代表者のホームページなどから、随時、発信していく。

また本研究は、2011年7月に関西学院大学「東日本大震災関連共同研究」として採択され、今後は文部科学省科学研究費補助金（日本社会学会、本研究センターともに申請中）とも連携して、震災後の日本社会のあり方についての提言的検討も計画している。

本研究は、関西学院大学大学共同研究（東日本大震災関連共同研究）および公益財団法人日産財団の研究助成を受けた。記して謝意を表します。

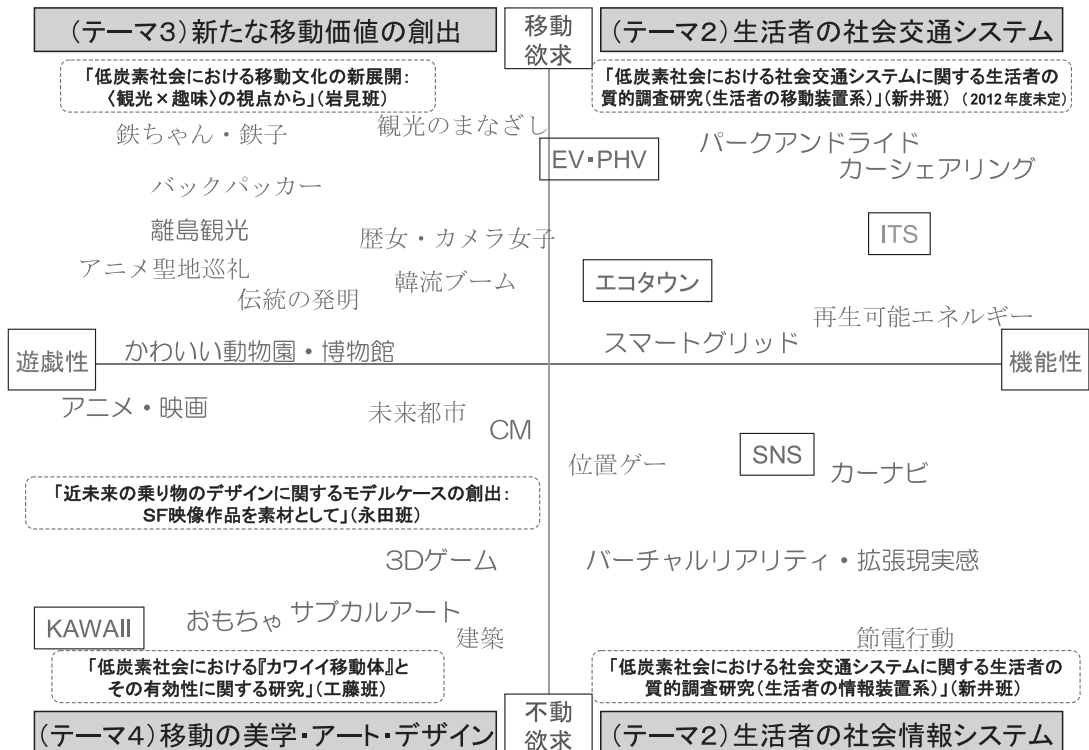
移動価値に関する二軸の変容から、近未来へ



「移動が生む文化的諸価値の通時的研究」(白幡班)

(テーマ1) 低炭素社会へ向けての移動の文化誌

低炭素社会における「人間の移動」と「移動価値」に関する研究分担 (2011年度推薦研究)



総括班 (奥野) …テーマ1～4の各研究の統括・評価